

台湾内政、日台関係をめぐる動向（2013年1月上旬－2013年3月上旬）

江宜樺内閣の成立と第四原発建設反対デモの実施

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

旧正月前に陳冲行政院長の辞任、江宜樺副院長の院長昇格をはじめとする内閣改造が報じられ、春節明けの2月下旬に正式に新内閣が発足した。台湾で建設中の第四機目の原子力発電所（略称「核四」）の建設にかかる問題で、江院長は今夏にも住民投票に付す意向を表明した。また3月9日には、台湾各地で第四原発建設反対にかかる大規模なデモ行進と抗議集会が実施された。

1月24日に尖閣諸島の領有権を主張する活動家による「保釣活動」が行なわれ、日台双方の公船が対峙する場面があった。2月下旬の安倍総理の訪米が台湾でも大きく報じられた。

1. 江宜樺内閣の成立

去年は総統選挙の年であり、1月の選挙で再選を果たした馬総統は欧州の債務危機を始め厳しい経済情勢に対応するため、春節前に内閣改造に着手した。その陳冲内閣は、台湾社会の懸案問題となっている年金改革の方向性につき江宜樺副院長らとともに1月30日に説明をしたが、その翌31日に陳行政院長の辞任（総統府資政に転任）、江副院長の昇格、毛治国交通部長の副院長就任などの人事が発表された。¹

陳院長の辞任の理由は、段階的任務の完成と「健康上の問題」であるとの説明がなされた。他の閣僚人事は、昨年と同様に翌日から小出しに発表され、翌日2月1日に交通部長、行政院秘書長、彭淮南中央銀行総裁の続投が報道され²、3日には経済建設委員会、経済部長などの経済閣僚の内定人事が報道された。³その後、陳内閣は7日に総辞職し、翌8日の朝刊には閣僚全員の卒業記念写真が掲載された。しかし、陳院長は、「内閣はすでに総辞職を提出したが、政務は一日たりとも停滞することは許されない」として、春節休みが明け

る18日の新内閣成立まで職務を全うするよう呼びかけた。⁴

内閣総辞職の7日、有線テレビのインタビューを受けた馬総統は、江次期院長について、「思慮深く、応答もてきぱきとしている、周囲に対しても誠実な正統派の人物である」と指摘するとともに「彼の職歴は行政院の施政全般を見渡す職務（研考会主任委員）を経験し、不動産取引の透明化（内政部長）、年金改革の推進（副院長）など重要な仕事を成し遂げるなど十分な能力を有していることが証明されたので彼に組閣してもらうことにした」と江次期院長に信頼を寄せていることを強調した。⁵また、米国留学博士、大学教員という馬総統と類似の背景を有する人物ばかり抜擢しているという批判については、「私は彼（江次期院長）と似ているところもあるが、似ていないところもある。しかし、（自分が副総統に抜擢した）呉副総統は私と似ているだろうか？」と一部の批判者の指摘に対して反駁した。

江次期院長に関しては、筆者は本誌で以前から馬総統の信頼が厚く、将来も嘱望されている人物であると紹介してきた。表1の経歴に示したよう

に江氏は2008年の馬政権成立とともに研究発展
 考核委員会主任委員（閣僚に相当）として入閣後、
 内政部長、行政院副院長を歴任したが、最近では
 困難な年金改革の方向性のとりまとめを行い、馬
 総統、陳院長の下で重要な任務を全うしたとみな
 された。⁶米国留学博士、大学教授という馬総統
 と似た経歴から「小馬英九」と形容されることも
 あり、昨年国民党に入党したことから、馬総統は、
 同人を次期台北市長か新北市長の候補に推そうと
 しているとの憶測も囁かれたが、今般行政院長の
 就任により、北部の直轄市長候補だけでなく、「吳
 敦義現副総統モデル」により、次期副総統候補と
 して2016年の総統選挙に臨む可能性も指摘がさ
 れた。⁷江氏は大学教授の身から4年数ヶ月の間
 に直通エレベーターで出世街道を最上階まで登り
 つめた結果、53歳という台湾憲政史上過去半世紀
 において最も若い行政院長が誕生することとなっ
 た⁸



副院長に就任する毛治国氏は、交通部での勤務
 が長く、国民党政権発足後閣僚の中で唯一異動の
 なかった人物であったこともあり、馬総統の信頼

が厚いとみなされてきたものの、今般の改造で副
 院長へ昇格したのは少々意外なものとして報じら
 れた。⁹しかしながら、同人は米国留学時代から
 馬総統と知己の関係であり、馬総統が台北市長時
 代に政務官として同人の起用を考慮したことも
 あったとされるなど、能力は広く認められ、馬政
 権下の劉兆玄内閣で劉氏に仕事ぶりを認められた
 とされている。また今回の「江毛正副院長コンビ」
 の発足は、社会福祉問題への取り組みと、観光産
 業の振興に傾注するとの分析がなされた。

9日から17日の春節休みが明けた、18日に江
 宜樺内閣が正式に成立した。今回の改組は表2に
 記したように院長、副院長、交通部長等一部の人
 事異動に収まった。

馬総統は新内閣のメンバーに対し、「最も重要
 なことは経済振興であり、今年中に自由経済模範
 区の推進や年金制度改革の立法化などに取り組む
 必要がある」と檄を飛ばした。また江院長は、「創
 新」、「変革」の内閣が必要として、閣僚に対し「任
 期の長さを問われるのではなく、任期中にどれだ
 け意義ある仕事を成し遂げたかを尋ねられるよう

表1 新行政院長、副院長の経歴

	学 歴	経 歴
江宜樺行政院長 	台湾大学政治学学士、修士 イェール大学政治学博士	中央研究院 台湾大学教授 研究発展考核委員会主任委員 内政部長 行政院副院長
毛治国副院長 	成功大学土木工学学士、 アジア工科大学院修士、 マサチューセッツ工科大学博士	交通部観光局長 交通部次長 中華電信理事長 交通大学教授 交通部長

になるべき」と仕事への取り組み姿勢を強調した。¹⁰かかる雰囲気触発されてか、管中閣経済建設委員会主任委員は、就任直後に2013年の経済成長率と失業率を4%前後に落ち着かせたいとの希望を強調した。2012年の経済成長率が1.25%、失業率が4.24%という数字を踏まえると、昨年第四期から回復した景気を持続、加速させることで4%という数字に近づく意欲を語ったが、昨年末に経済建設委員会自身が打ち立てた目標である経済成長率3.8%、失業率4.1%と比べてもかなり高いハードルであり、新内閣の野心が伺えると『聯合報』は論じ、期待感を示した。¹¹

TVBSの世論調査センターは、内閣改組後の2月5日に、馬総統に対する満足度調査を行った。馬総統への満足度は14%と先月と比べて変化はなかったが、不満足度は64%と3%下降した。江院長に関しては、「江氏が行政院長に就くのは適任だと思うか否か」という設問に対し、「意見なし」という様子見の回答が57%であったのに対し、「適任だと思う」が19%、「不適任だと思う」が23%と「低空発進」の結果となった。¹²しかし、2月下旬に内閣が正式に発足し、江院長が第四原発の建設の継続の可否につき住民投票に付すことを表明

した直後の調査では、「適任だと思う」が12ポイントも上昇し、「不適任だと思う」を10ポイント以上も上回る上々の滑り出しとなった。¹³

2. 民進党による大規模抗議活動の実施

民進党は、「無能な政府」と支持率の低迷する馬総統の施政に対する不満の声をあげるために、12月末から年初にかけて各地で抗議活動を行い、1月13日には台北市内で大規模な抗議デモと集会を行うと発表した。¹⁴林俊憲報道官は今回の一連の活動の主軸は「我々は怒っている！生活をしなければならぬ！民主が必要である！改革が必要である！」であり、12月中旬から約1ヶ月の間に台湾各地10箇所で開催して氣勢をあげると説明した。その後、年末年始にかけて、桃園、台中、宜蘭、雲林などで抗議集会を行った。

1月13日、民進党は台北市で「人民は怒っている、馬総統に抗議する」をスローガンとした抗議活動を実施し、デモ活動に参加した民衆は大声で「馬総統を罷免しよう」などとシュプレヒコールをあげた。民進党によれば、今抗議活動への参加者は20万人を超える規模になったとの説明がされた。¹⁵（台北市警察局の推計では約93000人と

表2 行政院の主な人事異動

役職	新任者と前職	前任者
行政院院長	江宜樺（行政院副院長）	陳冲
行政院副院長	毛治国（交通部長）	江宜樺
行政院秘書長	陳威仁（臺北市副市長）	陳士魁
經濟部長	張家祝（中華航空理事長）	施顏祥
交通部長	葉匡時（交通部次長）	毛治国

資料元：行政院「内閣閣員」<http://www.ey.gov.tw/cp.aspx?n=3EA60BA0B2A3AF8B>

表3 江院長が適任度に関する世論調査

調査日	適任	不適任	意見なし
2月5日	19%	31%	57%
2月25 - 26日	31% (+ 12%)	20% (- 11%)	49%

資料元：TVBS世論調査中心「核四公投爭議」（2013年2月26日）

http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201302/ff6iwp752m.pdf TVBS「」

発表。)同日夜に開催した抗議集会で蘇主席は、「無能な馬英九政府を交代させ、政策を換え、内閣を換え、立法委員を換え、総統を換えるために立ち上がろうと」支持者に訴えた。¹⁶抗議集会を視察した筆者は、台湾団結聯盟の服を着た関係者が馬総統の罷免にかかる署名活動をしているのを目撃したが、蘇主席は馬総統の罷免だけでなく、馬政府の政策に同調する改革に反対する立法委員の罷免の署名活動も推進する意向を示した。¹⁷中華民国憲法によると、総統の罷免案にかかる立法院での提案は就任1年後以降に可能となるので、民進黨は5月20日以降に立法院で総統罷免案の提出を準備する意向であると報じた。¹⁸

一方批判を浴びた政府は、13日夜10時半に、総統府、行政院、国民党が同時に声明を発表し、「今般の民進黨のデモ活動は、台湾内部の消耗であり、いたずらに住民の間に不要な対立と憎しみを煽るもの」と指摘したほか、「民進黨は政権を執ることだけを考えており、今般の活動も政治的な目的が明らかである」と批判した。¹⁹

デモが実施された1月中旬は、景気回復の兆しが見え始めた時期であり、従来の緑軍支持を超える台湾住民が積極的にデモ活動に参加したように思えなかったのは筆者だけではあるまい。

3. 第四原発建設反対デモと住民投票問題

(1) 江院長による第四原発建設問題を住民投票に付す表明とその余波

新内閣の任務は、過去の内閣と大同小異で経済振興が第一に置かれるが、原発政策が大きな課題として浮上した。2月23日に行政院政務首長検討会に出席した馬総統は祝辞で世論の関心の高い、現在建設中の台湾で四機目の原子力発電所「核四」の建設につき、「右は1992年に建設工事が復活してから、20年あまりになる。右問題は年金改革と同じように、難しい問題であり、いかなる決定をしても賞賛されることはないが、国家の将来

のためには建設か廃止かを必ず決定する必要がある」として、他の公共政策とともに政策執行時には「様々な意見に謙虚に耳を傾け、詳細な研究を行い、幅広く意思疎通を行い、慎重に決定する」姿勢が重要だとの認識を示し、政府関係者に十分な検討を求めた。²⁰馬総統の発言に対し、江行政院長は、「政府の原発政策は一貫している」として「安全が確保されなければ、第四原発の建設もない」とし、第四原発の安全性が確保されない場合は、稼動はしないとの従来の立場を強調するとともに、原発の所管部門である経済部に対して第四原発の検査と監督を責任をもってやらせ、各方面の専門家の意見を聞き入れるよう指導したと説明した。²¹翌24日には張家祝経済部長が就任後初めて第四原発の建設現場を視察したほか、反原発団体の関係者からも意見聴取をする予定であるなど、「反対意見も含めて幅広く意思疎通を求めている」姿勢が報じられた。²²

さらに26日には、馬総統、江院長ら総統府、行政院首脳は第四原発の建設に関し検討し、江院長が右問題を住民投票に付すことに決定した旨表明した。²³民進黨は党是として「非核国家の建設」を抱えているところ、長年反原発運動には関与、支持し、昨年総統選挙においても蔡英文候補(当時)は政策文書で2025年の非核化などを強調している。²⁴

政府による住民投票推進の動きに対して民進黨は、「台湾住民は原子力災害におびえて生活することを明確に拒否している」として「住民投票に付すのであれば、先に関連予算の凍結と工事を停止し、住民投票の成立条件を民意を反映した形に引き下げるべく住民投票法の修正にかかわるべきである」との声明を出した。²⁵一方で馬総統はじめ政府首脳は、住民投票に付すことを表明したが、政府の立場としては、引き続き建設することを目指すことを確認した。²⁶

3月1日、江院長は立法院で初めて委員の質疑

表4 第四原発にかかる事件簿

年	執政党	事 件
1980	国民党	台湾電力、第四原発建設案を提出、行政院は新北市貢寮区に建設を同意
1986	国民党	チェルノブイリの原発事故、立法院は第四原発予算を凍結
1992	国民党	郝柏村行政院長、第四原発関連の予算凍結を解除
1994	国民党	貢寮区で初の住民投票を実施、96%の有権者が反対票投じる
1996	国民党	立法院で第四原発建設計画廃止案が通過、行政院が覆議を提出、立法院の覆議案が通過
1999	国民党	原子力エネルギー委員会が第四原発の建築許可証を発行、建設が正式に復活
2000	民進党	張俊雄行政院長、第四原発の予算を執行しないと宣言
2001	民進党	大法官、第四原発建設停止は憲法違反の裁定、建設再開
2011	国民党	東日本大震災による福島原発事故発生、第四原発論争が再燃
2013	国民党	馬総統、第四原発の建設は完成させるが、稼働の可否は再評価することを確認
2013	国民党	江行政院長、第四原発建設の可否につき住民投票に付すことを表明

資料元：「核四停・建大事記」『聯合報』（2013年3月4日）頁5。

表5 第四原発建設に対する態度

	全体	台北新北基隆	民進党支持	国民党支持
建設継続	27%	27%	17%	51%
建設停止	58%	60%	76%	32%
意見なし	16%	13%	7%	17%

資料元：TVBS 世論調査中心「核四公投爭議」（2013年2月26日）
http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201302/ff6iwp752m.pdf

応答に答えたが、その際に「住民投票の結果、第四原発の建設が否決されれば、右政策を推進してきた政府の代表として職務を辞任する」との決意を表明する震撼弾となったと各紙は報じた。²⁷右に対して民進党は林報道官が、江院長は「自分の職務を以って国民を（第四原発の住民投票に賛成するよう）恫喝するのか」と反駁するとともに右問題への理性的な議論をするよう呼びかけた。²⁸

表4は第四原発の建設にかかる事件簿を記した。チェルノブイリ、福島原発事故が台湾社会に与えた影響は大きく、民進党時代には強引に建設を停止し、内政上の混乱を引き起こすなど政治化している問題でもある。

世論はかかる動きに如何に反応でしたであろうか。TVBS 世論調査センターは、2月25日から26日にかけて第四原発問題の建設にかかる調査

を行った。²⁹表5はその結果であるが、「建設停止を支持」が過半数を超える58%で「建設継続を支持」の27%を大きく上回った。「意見なし」は16%であった。一方、地域別では第四原発の建設地である北部地域住民の建設反対が6割に達したほか、政党支持別でも民進党支持者は建設反対が76%と国民党支持者の32%をはるかに上回る結果になった。

(2) 第四原発建設反対デモの実施と政府の反応
 反原発団体の発起による「309 全台廢核大遊行」（3月9日全台湾原発廃止を主張する大行進活動）が3月10日午後、台北、台中、高雄、台東など台湾各地で開催され、デモ参加者はそれぞれ、五大主張の「第四原発関連予算の追加を停止、第四原発建設の即時停止と第一、二、三原発の前倒し廢

炉³⁰、蘭嶼島からの核廃棄物貯蔵施設の移転、政府の電力利用ゼロ成長政策の貫徹」を訴えた。抗議デモ主催機関の「緑色公民行動聯盟」によると台湾全島でデモ活動に参加した民衆は20万人を超え、反原発デモとしては史上最高人数となったと指摘した。³¹筆者が見物した台北のデモ行進及び集会場には、親子連れや学生が多く、台湾で頻繁に行なわれる抗議デモ、抗議集会と比べると政治的匂いが少なく³²、様々な工夫を凝らしたファッションで写真撮影に興じる姿が散見されるなどお祭りのような雰囲気も漂っていた。

午後4時には、主催者側から、福島原発の事故を例に、もし建設中の第四原発（新北市貢寮区）をはじめ、第一原発（新北市石門区）、第二原発（新北市萬里区）で事故が発生したら、それぞれの場所から40キロ以内に位置する台北市中心部は被災地となるという事情を踏まえ、「原子力災害に警戒、特別区³³を封鎖、第四原発建設を廃止し、台湾の原発をゼロに！」というスローガンを叫ぶ一幕があった。

同デモ行進には、事前には林志玲ら著名芸能人らがフェイスブックや微薄などの媒体で同活動への支持を訴えたほか、当日のデモ行進にも文芸界、芸能界などから多くの関係者が参加して現政府の原発政策を批判した。³⁴民進党は蘇主席をはじめ、呂元副総統、蔡前主席、謝元行政院長ら大老も参加した。蘇主席は「今回のデモ行進は党派や年齢にかかわらず自発的な行動であり、江院長に誠意があれば、第四原発建設の停止を積極的に停止すべきである」と強調した。³⁵

今デモ活動に対して、総統府は李佳霏報道官が、馬総統を代弁する形で以下のように述べた。³⁶「馬総統は政府の原子力エネルギー政策は『電力不足にならず、合理的な電気価格、温室効果ガス削減を達成する』という前提で、『原発の安全性を確保し、穏健に原発への依存度を減じ、エコエネルギーの環境を作りだし、徐々に非核社会へと向

かう』であるが、非核社会の終極的目標に一気にたどり着くのは現在の状況では困難であり、政府は漸進的な方法で目標に向かうという立場である」。また本日の抗議活動に関しては、「台湾社会の成熟した市民のパワーを体現した」として尊重の意を表明するとともに、右問題に関し、「政府は引き続き民間の声に耳を傾け意思疎通を図るとともに、住民投票を通じて台湾住民に（第四原発の建設の可否に関する）決定をさせることで、20年にわたる第四原発の論争問題を有効的に解決したい」との指摘がされた。

また10日に国民党関連の会合に出席した馬主席は、第四原発建設の住民投票に関して、「現在の住民投票をめぐる状況は、徐々に原発依存度を減じるか即座に原発を廃止するかという二つの考え方である。原子力エネルギーは、現在のところ最も廉価でクリーンなエネルギーであり、政府は原発の安全性を確保するだけではなく、安全性が確保できないのであれば、第四原発が完成しても稼働はさせない、同時に最も正しいデータを列举し、十分な情報を提供することで、台湾住民に最後の決定をしてもらいたい」との見方を示すところがあった。³⁷

今回のデモ活動は、原発を請け負う台湾電力公司による重なる工事の設計変更、ずさんな安全管理、不祥事などが明るみに出るたびに、度々台湾世論の批判を浴びてきたことに加え、2011年の福島原発事故の発生が台湾社会の原発に対する疑念を高めているという事情が大きく反映された。また昨年以来の不景気で雇用の不安定、賃金上昇の停滞といった労働者の不満が蔓延する中で、業績が悪くても、親方日の丸のごとく雇用が安定し、定期昇給する台湾電力の待遇の良さが世論の厳しい指弾に遭い「台湾電力叩き」の風潮が強まっていたことも無関係ではないような感がある。いずれにしろ、政府は近日中に立法院で与党国民党に住民投票にかかる草案を提出させ、早い時期での

住民投票に付す準備を進める予定である。第四原発の建設をはじめとする原発問題は、今年の台湾政治の主要イシューに躍り出た感がある。

4. 台中市立法委員補選は国民党が勝利

(1) 現職立法委員の失職と与野党補選候補の擁立

昨年11月28日、顔清標立法委員は台中県議長時代にスナックの飲み代を公費で費消していた案件につき、最高裁は3年6ヶ月の有罪判決、公民権剥奪3年の判決を言い渡し、即日失職し、収監されると報じられた。³⁸顔委員は戒厳令時代に、当時の政府による超法規的な暴力団摘発の対象になり、政治犯が収容されていた緑島へ移送された経歴を持つ。その後、台中県議、同県議長を務めるなど地方派閥を代表する「土着性」の強いタイプの政治家として、長らく実質上無所属で活動してきた。2001年12月の選挙以降4回連続で立法委員に当選し、その間2008年6月には違法銃器所持等の罪で3年9ヶ月の判決を受けたものの立法委員の身分のまま同8月から収監されたが、翌年5月には仮釈放され、2012年1月の選挙でも再選を果たしていた。

有罪判決の出た翌29日には、同人らは家族会議の結果、顔委員の息子の顔寛恒が父に代わって出馬する「代父出征」になると報じられた。³⁹その後、国民党は12月19日の中央常務委員会で、党内で他に立候補者がおらず党員資格を有する顔寛恒を正式に党公認候補に選出した。⁴⁰

一方、迎え撃つ民進党は党内で有力候補3人に

よる支持率調査を行った結果、現台中市議の陳世凱の支持率が高かったとして候補に選出した。蘇主席は、「台中第二選挙区は民進党にとって厳しい選挙区であり、勝利は容易ではないが、陳候補は若く、前回の市議選挙において最高得票数で当選しており、期待する」と述べるどころがあった。⁴¹同補選には、もう一名、「全民政党」からの参選者があった。

(2) 補選の結果

40日に及ぶ選挙戦で顔陣営は、父親の20年にわたる地方経営の実績を訴える一方で、馬総統の施政に対する不満の高まりを考慮して、馬主席は現地を遊説、応援することなく、国民党候補であることを前面に出すのを隠すように戦う姿勢が顕著であった。一方、負けてもととの民進党は、顔候補に対して「親父の権勢頼りの人物」との批判に加え馬総統と現政権批判を主軸にして、「今補選は馬総統罷免への第一戦」などと、政党対決色を強め、蘇主席のほか、蔡英文前主席、謝長廷元行政院長ら大老まで全党態勢で支援した。

1月26日に投開票された選挙は、実質上の国民、民進両党対決となり、顔候補が得票数1138票差、得票率でも0.86%という小差で陳候補を下し、翌朝刊主要三紙はいずれも「顔が際どい勝利」と報じた。⁴²投票率は48%、泡沫候補の全民政党候補は1283票（得票率0.96%）にとどまった。⁴³（表6）

選挙結果につき国民党は曾永權副主席兼秘書長が、台中市の有権者に対して国民党候補への支持

表6 台中市第二選挙区における2013年立法委員補選と2012年立法委員選挙の比較

2013年1月立法委員補選		2012年1月立法委員選挙	
顔寛恒 (国民党)	陳世凱 (民進党)	顔清標 (無所属)	李順涼 (民進党)
66457 (49.95)	65319 (49.09)	118585 (59.79)	79730 (40.20)
1138 0.86%		38855 19.59%	
		得票数 (%)	
		表、得票率差	

資料元：中央選挙委員会ホームページ「第8届立法委員臺中市第2選挙区缺額補選選挙結果」(2013年1月26日) <http://web.cec.gov.tw/files/15-1000-20481.c4133-1.php>

に感謝するとともに、今選挙結果に満足することなく、引き続き地方の経営を強化し、基層に深く根をおろし、現実的な態度を以って更に多くの支持を獲得していきたいと述べた。⁴⁴「栄誉ある敗戦」に終わった民進党は、蘇主席が「今回の選挙において有権者は国民党と地法派閥勢力に包囲される中で、勇敢にも立場を堅持し、民進党候補を支持してくれたが、当選することが出来ず遺憾である」と反省の弁を述べた後、「今選挙区では藍軍と緑軍の基礎票には20%近い差があったが、今回は千百数票差の惜敗となったが、この結果は現在の民意を代表している」と指摘し、「引き続き改革の列車は前進を続ける」と支持者を鼓舞した。⁴⁵

今回の補選の観察として『聯合報』は「今選挙結果が政局に与える影響は限定的である」としながら、「国民党主席である馬総統があたかも『人間蒸発』したかのよう表に出てこなかったのは、民進党の有力者がほぼ勢ぞろいしたのと比べると際立っていた」と指摘し、一方で顔父子は今選挙を「悲劇の親子が民進党に対抗する」という構図に引き込み、有権者の同情を買い辛勝できたと論じた。⁴⁶『自由時報』は国民党が大きく得票率を落とした主因は馬総統の執政の失敗にあるとして選挙区の有権者の投票行動が変化したものではないと分析した。⁴⁷匿名の国民党立法委員は、今補選の苦戦は馬政権のパフォーマンスに対する不満が有権者の士気に影響したと分析し、2014年の地方選挙（台中市長選挙等直轄市長選挙含む）は苦戦必至であると警鐘を鳴らした。⁴⁸台中市選出の民進党籍立法委員の林佳龍氏は民進党が将来的に国民党に勝つ希望が見えたとして、基層組織と地方経営の強化が必要と述べた。⁴⁹

今回の補選は、民進党が馬総統の罷免活動に向けて動き出すなど対決姿勢を旗幟鮮明にした後、初の選挙であったこともあり、民進党主席、行政院長経験者などが連日応援にかけつけるなど民進党陣営は相当力をいれたことから、マスコミは「総

統選挙並みの動員をかけた選挙」との説明もなされた。一方で国民党は、前述のように馬主席は後ろに退き、曾永権秘書長が陣頭指揮をとった。顔清標は、その経歴からも国民党ではなく、実質上無所属で活動し、著名寺廟の後援会などを中心とした組織戦で選挙は負けなしの強さを誇ってきたが、今選挙では、馬主席や現政権とは距離をおきながらも知名度に劣る実息が勝利したことは、父親が長年にわたって経営してきた資産が引き継がれたことが証明された。また通常、台湾での補選の投票率は4割前後だったのが、今選挙では約49%に跳ね上がったように、有権者の関心の高さと両陣営の力の拮入れの強さが示された選挙であった。

5. 馬総統の開国記念日談話

馬総統は1月1日午前、総統府で中華民国102年開国記念式典と元旦の挨拶を行い、祝辞を述べた。⁵⁰祝辞では、先に「今年の経済情勢は厳しいものであったが、今年の経済は昨年より良くなる」と強調するとともに、「時機をつかみ改革を加速させ、行動を奮い起こし四つの挑戦、『グローバルな産業競争の激化』、『自由貿易化が進行する趨勢』、『人材育成と産業が必要とする人材のアンバランス』、『少子高齢化』に立ち向かい、克服していくべきである」として、施政方針を強調するところがあった。

日台関係に関しては、尖閣諸島にかかる問題で、台湾側は「東シナ海平和イニシアチブ」を提起し、「主権にかかる論争を棚上げし、協力して資源開発を行なう」との原則で東シナ海を平和と協力の海にすることを主張するなどの従来立場を繰り返すとともに、現在進行中の漁業交渉は非常に重要な起点となると強調するところがあった。

6. 中華保釣協会メンバーによる尖閣諸島海域の抗議活動

尖閣諸島の領有を強く主張する中華保釣協会メンバーは、1月24日未明に新北市の深澳漁港を出航し、尖閣諸島へ向かった。同協会メンバーを乗せた「全家福号」は、漁業の守護神として台湾及び中国東南部の福建、広東の沿岸部で信仰を集めている「媽祖」の神像を尖閣諸島に設置することが目的であると説明した。同船は24日の午前には尖閣諸島から西南17キロのところまで接近したが、海上保安庁船籍8艘に包囲され、放水により行く手を遮られ、撤退を余儀なくされ同日夜10時に深澳漁港に帰航したと報じられた。同活動について台湾メディアは、漁民保護を執行するために海巡署の艦船が5時間にわたって日本の艦船と追跡合戦を演じたと報じた。⁵¹またその際、中国の海監船が三隻出現したことで王崇儀・海巡署副署長は、中台が保釣活動を協力しているとの疑念を引き起こさないためにも、放送とLEDの電光掲示板を利用した方法で厳かに「魚釣島は中華民国の領土である！ここは中華民国の釣魚台海域であるから、すぐにこの場を離れなさいと警告した」と説明するところがあった。⁵²台湾側の説明によると尖閣諸島海域で台湾、日本、中国の公務船が同時に出現したのは初めてのことである。

また同活動に参加した活動メンバーは、「海上保安庁の放水攻撃でエンジンを含め設備を破壊されたため、今回の活動は途中で断念を余儀なくされたが、3月以降天候が回復した後に、再度保釣活動を起こしたい」と春以降の活動を示唆した。⁵³

今件が今後の日台漁業交渉に対する影響に関して、蘇啓誠アジア太平洋副司長は日本側は「(交渉に)影響する」と暗示し、第二回予備会談は恐らく延期されるだろうとの見通しを述べるとともに、「我が方は日本側が理性的、平和的な態度で事

態を処理し、漁業交渉の進展に影響させずに当初の計画通り、1月末か2月中旬に予備交渉を行いたい」と述べた。⁵⁴また海巡署が同日開催した記者会見には、台湾、日本、中国はじめ18社のメディアが集まり、アルジャジーラの記者から「中国と日本の関係は最近緊張しているが、なぜ台湾はこの時分に介入したのか？」との質問が出た際に、海巡署関係者は「同海域はもともと我が国の領土であり、『介入』という問題は一切ない」と説明する場面があったと『自由時報』紙は報じた。⁵⁵

また『中国時報』は、海巡署の船舶が尖閣海域で中国公務船に対して台湾側が同海域の主権を主張したことに対し、中国のネット世論が騒然となったが、中国政府はローキーな対応をして兩岸の間に対峙する雰囲気をかもし出すのを避けようとしたと論じるところがあった。⁵⁶

7. 蘇貞昌民進党主席の訪日

蘇貞昌民進党主席率いる民進党代表団が2月3日から7日まで訪日した。訪日に先立ち、劉世忠同党国際事務部主任は、「今回の訪日は、日本の各政党との友好関係の継続と強化であり、自民党政権の復活後、安倍総理の民主、平和重視の呼びかけに応えるものであり、右を今訪問の主題とし、政策面での交流強化を目的としている」と指摘した。⁵⁷また「内閣制を採用する日本との交流において国会議員との友好関係は、二国関係の増進に有益なものであり、民進党代表団の今回の訪日は蘇主席をはじめ立法委員、シンクタンク関係者を率い政党外交、国会外交、シンクタンク外交の実施である」と説明した。

2月3日、訪日に際し蘇主席は、「今回は党主席就任後初の海外訪問であるところ、我々と長期にわたり友好関係を保ち、なお台湾にとって非常に重要な隣国である日本を訪問することを優先的に選んだ」と訪日への意気込みを語った。⁵⁸

2月3日の華僑関係者との会食で蘇主席は民進

党への支持に対する感謝を述べるとともに、「今後も引き続き民進党を支持していただき、2014年の直轄市長選挙を含む地方選挙で勝利し、2016年の国会及び総統選挙の勝利の基礎としたい」との意気込みを語った。⁵⁹

4日、随行記者との懇談で今回の訪日の目標として「周辺国家の民主同盟を強化するとして、東北アジア地域の安全と繁栄をとともに維持するために民主、自由、人権を尊重する価値を有する米国、日本、韓国との関係を強化したい」と語った。⁶⁰右発言はかかる価値観を有していない中国を意識したものであることが容易に想起された。更に同日、日華議員懇談会メンバーと会見し、蘇主席は、「日華懇が日台関係において重要な役割を果たし、断交後の両国関係の緊密な往来を保つことに努力してきた」とその功績を称えた。⁶¹

5日朝、蘇主席らは安倍総理の実弟の岸信夫議員ら自民党の若手議員7名と朝食会を開催し、劉国際事務部主任は、右会合に関し「双方が次世代の議員間の交流を強化することにつき意見交換がなされた」と説明した。⁶²また6日、自民党のシンクタンクである「近未来政治研究会」の最高顧問である山崎拓元副総裁らと会談した際に尖閣問題に触れ、「日台間で尖閣（釣魚台）問題についてはそれぞれ異なる主張があるが、地域の平和と安定を維持することに関しては、共通認識があり、双方は平和的な対話を通じて論争を和らげることが、両国の良好な関係につながる」と指摘し、「両国にとっての喫緊の課題である漁業問題に関し、双方のシンクタンクで議論を行い、今問題について促進させることが両国関係の発展に利益がある」と指摘するとともに、他国に付け入る隙を与えないべきではない」と述べるところがあった。⁶³蘇主席は同日、渡辺喜美みんなの党代表らとも会見し、中国の軍拡問題について意見交換した旨報じられた。⁶⁴

訪日最終日の7日は、民間の発電所である江戸

川第一発電所を視察し、環境問題に関しNGO関係者と意見交換を行った。蘇主席は、江戸川住民が自発的に発電所を建設し環境保護運動に関与した姿勢を肯定するとともに、台湾住民に対し第四原発建設反対の連署に積極的に参加するよう呼びかけた。⁶⁵また蘇主席はメディアからの今回の訪日の成果につき質問を受け、「今回の訪日は成功であり、予定通りの日程をこなし、期待通りの成果をあげることができた。今回の訪日は、政党外交、国会外交及びシンクタンク外交であり、我々は自民党、民主党、公明党、みんなの党のリーダーと会見、交流し、60名以上の衆参国會議員らをはじめ多くの建設的な意見交換を行うことができた」と成果を強調した。

現段階では次期総統候補ではない台湾野党主席という身分では、日本での取り扱いも限られたものであったが、2016年の国政選挙で政権奪回を目指す民進党にとって、蘇主席は蔡前主席ともに「唯二」の有力候補であり、その動向は注目しておくべき人物である。

8. 安倍総理の訪米と台湾世論の反応

2月下旬の安倍首相の訪米は、日米両国と緊密な関係を有する台湾でも大きな関心を以って報じられたが、関心事項や国際関係における台湾の向かうべき姿の違いから、異なる角度から報じられた。日本のマスコミは、共同声明で触れられたTPP問題に関しての報道がトップ扱いであったが、台湾では右問題は2-3番目に紹介されたにすぎなかった。⁶⁶以下、各紙の報道振りを簡潔に紹介する。

『聯合報』は、1面トップで日米首脳会談後の記者会見ではなく、安倍首相が米シンクタンクの戦略国際研究センター（CSIS：Center for Strategic and International Studies）で行った講演の中で「日本は今も、これからも、二級国家にはなりません。」「十分に強い日本を取り戻す」との発言を引

用し、詳しく報じた。⁶⁷また同紙3面では、台湾の関心の持つ尖閣諸島の主権問題に関し、安倍首相が従来の立場を強調したほか、⁶⁸右に対する中国側の反応として『新華社』が右講演内容につき「日本はどこに戻るのか？軍国主義にでも戻るのか？」と暗示したことを報じた。⁶⁹

『中国時報』は、1面トップで「安倍は共同記者会見で尖閣諸島問題につき多くを語ったが、オバマは尖閣問題、日米安保問題につき触れなかった」として、日米首脳の今会談における重点にずれがあった点を揶揄したほか⁷⁰、3面ではCSISの演

説における「私も日本も戻ってきました」という部分を写真入りで報じた。⁷¹

民進党寄り論調の『自由時報』は、三紙の中で唯一1面ではなく2面で日米両首脳が笑顔で握手する写真で日米関係の緊密さを訴えるとともに、安倍総理の「習近平総書記との会談を望む」という発言を報じるなど対照的な報道振りとなった。⁷²

これらの違いは各紙の普段の「対中国融和度」、
「尖閣諸島問題に対する厳しさ」の違い、読者層の違いをも反映したものであり、興味深く感じた。

- 1 「陳沖下台 江宜樞接閣揆」『自由時報』（2013年2月1日）頁1、「江宜樞、毛治國 正副閣揆」『聯合報』（2013年2月1日）頁1、「江宜樞接閣揆、毛治國副院長」『中国時報』（2013年2月1日）頁1。
- 2 「彭淮南續任央行總裁 陳威仁政院秘書長」『自由時報』（2013年2月2日）頁1、「陳威仁政院接政院秘書長」『中国時報』（2013年2月2日）頁1。
- 3 「張家祝掌經濟部 管中閔接經建會」『中国時報』（2013年2月4日）頁1、「經長張家祝 經建會管中閔」『聯合報』（2013年2月4日）頁1。
- 4 「內閣總辭 陳揆：政務不停頓」『自由時報』（2013年2月8日）頁2。
- 5 「馬：江宜樞有像我 也有些不像」『中国時報』（2013年2月8日）頁2。
- 6 「江宜樞 為年金改革火力全開」『聯合報』（2013年2月1日）頁3
- 7 「內定閣揆小馬英九江宜樞 躋身接班梯隊」『聯合報』（2013年2月1日）頁3
- 8 「書生從政 江宜樞 50年來最年輕閣揆」『中国時報』（2013年2月1日）頁2。
- 9 「毛治國 跌破不少人眼鏡」『聯合報』（2013年2月1日）頁3。
- 10 「江揆上任：重大議題設溝通平台」『自由時報』（2013年2月19日）頁3。
- 11 「管中閔喊『黃金交叉』」『聯合報』（2013年2月19日）頁1。
- 12 TVBS 世論調查中心「內閣改組後馬總統滿意度民調」（2013年2月5日）http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201302/pl86bjrha9.pdf
- 13 TVBS 世論調查中心「核四公投爭議」（2013年2月26日）http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201302/ff6iwp752m.pdf
- 14 民主進歩党ホームページ「公佈『火大-作伙行』視覺及『火大列車』首波群眾大會場次」（2012年12月13日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6393
- 15 「20萬人火大上街 高喊罷免馬總統」『自由時報』（2013年1月14日）頁1。
- 16 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌主席火大遊行晚會『人民火大，齊燃改革大火』演說」（2013年1月13日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6437
- 17 「火大怒潮蘇促罷免總統立委」『中国時報』（2013年1月14日）頁4。
- 18 「滿意度13 臥蘇：馬總統下台吧」『自由時報』（2013年1月14日）頁3。
- 19 「府院黨批念茲在茲只有政權」『中国時報』（2013年1月14日）頁4。
- 20 總統府ホームページ「總統出席『102年行政院政務首長研討會』（2013年2月23日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=29271&rmid=514>。
- 21 「核四停建與否 馬提20字箴言」『中国時報』（2013年2月24日）頁2。
- 22 「張家祝向核安悍將林宗堯取經」『聯合報』（2013年2月25日）頁1。
- 23 「府院拍板核四訴諸公投」『聯合報』（2013年2月26日）頁1。
- 24 民主進歩党ホームページ「十年政綱 七、能燃」http://10.iing.tw/2011/08/blog-post_16.html
- 25 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨對江揆關於核四講話的回應」（2013年2月25日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6494

- 26 「馬重申：興建核四立場不鬆動」『自由時報』（2013年2月27日）頁3。
- 27 「公投結果 若決定停建核四 江宜樺：我辭職負責」『聯合報』（2013年3月2日）頁1。
- 28 「綠：江不該用官位恐嚇人民」『聯合報』（2013年3月2日）頁3。
- 29 TVBS 世論調查中心「核四公投爭議」（2013年2月26日）http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201302/ff6iwp752m.pdf
- 30 台湾電力の資料によると2018年以降、第一原発から旧原発は順番に廃炉し、現在稼動している中で最新の第三原発の2号機は2025年に廃炉予定となっている。参考「核四若停電2018年恐限電」『聯合報』（2013年3月2日）頁3。
- 31 「廢核大遊行 素人上街新頁」『聯合報』（2013年3月10日）頁1、「20萬人上街喊廢核」『自由時報』（2013年3月10日）頁1、「全台大遊行 22萬人喊廢核『這就是民意』」『蘋果日報』（2013年3月10日）頁1。
- 32 「反核20萬人站出來」『中国時報』（2013年3月10日）頁1。
- 33 通称「博愛特區」と呼ばれ、総統府をはじめ台北市中正区の国防部、外交部、最高裁判所など政府機関が集結している首都の核心地域を指し、日本では霞ヶ関に相当する。
- 34 「藝人嗆政府：不要核四拼裝車」『中国時報』（2013年3月10日）頁3。
- 35 「蘇嗆江揆：應主動停建核四」『自由時報』（2013年3月10日）頁6。
- 36 総統府ホームページ「總統府回應廢核遊行」（2013年3月9日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=29349&rmid=514>
- 37 中国国民党ホームページ「核四公投是穩健減核與立即廢核的選擇」（2013年3月10日）<http://www.kmt.org.tw/page.aspx?id=32&aid=9635>
- 38 「公帳喝花酒案定讞 顏清標失立委資格」『聯合報』（2012年11月29日）頁1。
- 39 「顏清標被解職 顏寬恆代夫出征選立委」『聯合報』（2012年11月30日、頁6。
- 40 中国国民党ホームページ「中常會通過提名顏寬恆參選台中市第二選區立委補選」（2012年12月19日）<http://www.kmt.org.tw/page.aspx?id=32&aid=8298>
- 41 民主進歩党ホームページ「民主進歩党第十五屆第三次中執會新聞稿」（2012年12月17日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6398
- 42 「台中立委補選 顏寬恆險勝 綠小輸 1138 票」『自由時報』（2013年1月27日）頁1、「顏寬恆險勝 1138 票」『中國時報』（2013年1月27日）頁1、「中市立委補選 顏寬恆 1138 票險勝」『自由時報』（2013年1月27日）頁1
- 43 中央選舉委員會ホームページ「第8屆立法委員臺中市第2選舉區缺額補選選舉結果」（2013年1月26日）http://web.cec.gov.tw/files/15-1000-20481_c4133-1.php
- 44 中国国民党ホームページ「台中市立委補選結果 顏寬恆勝出 曾副主席感謝鄉親支持國民黨 新增立院生力軍」（2013年1月26日）<http://www.kmt.org.tw/page.aspx?id=32&aid=8852>
- 45 民主進歩党ホームページ「『改革的列車會繼續前進』-對台中市二選區立委補選結果的回應」（2013年1月26日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6458
- 46 「父子抗一黨 馬猶如人間蒸發」『聯合報』（2013年1月27日）頁3。
- 47 「馬執政失敗 顏家失票主因」『自由時報』（2013年1月27日）頁4。
- 48 「鐵票沒出來 未來有苦頭吃」『自由時報』（2013年1月27日）頁4。
- 49 「民進黨：在台中 看見翻盤的希望」『中国時報』（2013年1月27日）頁2。
- 50 総統府ホームページ「總統主持中華民國102年開國紀念典禮暨元旦團拜」（2013年1月1日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=28941&rmid=514>
- 51 「『送媽祖到釣魚台』日艦噴水阻撓」『聯合報』（2013年1月25日）聯1。
- 52 「釣魚台風雲再起 台日中首度會師」『中国時報』（2013年1月25日）聯1。
- 53 「日艦水柱強攻 毀了媽祖神龕」『中国時報』（2013年1月25日）聯3。
- 54 「日暗示漁業會談恐延期」『聯合報』（2013年1月25日）聯6。
- 55 「全家福號挺進釣島 台日艦護噴水」『自由時報』（2013年1月25日）聯2。
- 56 「我宣示主權 大陸冷處理」『中国時報』（2013年1月25日）聯3。
- 57 民主進歩党ホームページ「蘇主席將訪日開展民主繁榮和平之旅」（2013年1月28日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6460
- 58 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨訪日『民主和平繁榮之旅』今日啟程」（2013年2月3日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6471
- 59 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌與日僑餐敘感謝過去支持 期許未來共同打拚重返執政」（2013年2月3日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6471

- org.tw/news_content.php?&sn=6472
- 60 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌：強化民主同盟，維持區域安全與繁榮」（2013年2月4日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6473
- 61 民主進歩党ホームページ「感謝增進台日關係，蘇主席拜訪日華懇議員」（2013年2月4日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6474
- 62 民主進歩党ホームページ「與岸信夫等自民黨議員共進早餐，蘇主席：強化與日新生代議員交流」（2013年2月5日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6475
- 63 民主進歩党ホームページ「蘇主席：台日關係情同手足，盼和平對話弭平紛爭」（2013年2月6日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6476
- 64 「台日協商釣島漁權 蘇：不讓他國見縫插針」『自由時報』（2013年2月7日）頁6。
- 65 民主進歩党ホームページ「參訪江戸川市民發電所，蘇主席籲國人踴躍連署公投，實現非核家園」（2013年2月7日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6479
- 66 「TPP 議題 美日峰會獲進展」『自由時報』（2013年2月24日）頁2、「美日聯合聲明 TPP 談判各取所需」『聯合報』（2013年2月24日）頁3、「談 TPP 不必關稅日意願大增」『中國時報』（2013年2月24日）頁3。
- 67 「華府演說緊握拳頭 安倍：找回強大日本」『聯合報』（2013年2月24日）頁1。
- 68 「安倍：不容武力改變釣魚台現狀」『聯合報』（2013年2月24日）頁3。
- 69 「新華社暗批日方要回到軍國主義？」『聯合報』（2013年2月24日）頁3。
- 70 「安倍猛講釣島 歐巴馬愜愜」『中國時報』（2013年2月24日）頁1。
- 71 「安倍：我回來了，日本亦如是」『中國時報』（2013年2月24日）頁3。
- 72 「安倍：盼有機會和習近平見面」『自由時報』（2013年2月24日）頁2。